

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 八枝 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

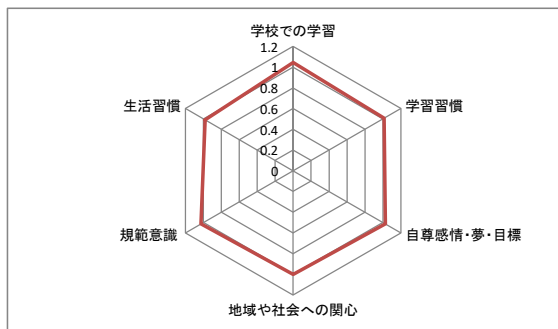
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に正答率は高く、全国・県を大きく上回っている。また、無解答率が低い。 ほとんどの設問で、全国・県・市を上回っている。 	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	<ul style="list-style-type: none"> 5 主語述語の関係に注意して文を正しく書く問題 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 8(イ) (「設」) 2 文章全体の構成の効果を考える問題 	
国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に正答率は高く、全国・県を上回っている。また、無解答率が低い。 ほとんどの設問で、全国・県・市を上回っている。 	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	<ul style="list-style-type: none"> 2(一) 文章全体の構成の効果を考える問題 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 1(三) (話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることができるかを問う問題 	
算数A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に正答率は高く、全国・県を上回っている。また、無解答率が低い。 多くの設問で、全国・県・市を上回っている。 	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	<ul style="list-style-type: none"> 7(1) 円周率の意味の問題 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 1(2) 1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表す問題 	
算数B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に正答率は高く、全国・県を上回っている。また、無解答率が低い。 半数の設問で、全国・県・市を上回っている。 	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	<ul style="list-style-type: none"> 1(2) 敷き詰め模様の中に集まった角の和が360° になっていることを言葉屋敷を用いて記述する問題 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 3(1)(2) 事象を、グラフの特徴を基に、複数の視点で考察したり表現したりすることができるかどうかを問う問題 	
理科	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に正答率は高く、全国・県を大きく上回っている。また、無解答率が低い。 ほぼ全ての設問で、全国・県・市を上回っている。 	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	<ul style="list-style-type: none"> 2(4) 複数の情報を関連付けながら分析して考察できるかどうかをみる問題 4(1) 濾過の適切な操作方法の問題 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 3(4) 太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電流の関係を目的に合ったものづくりに適用できるかどうかの問題 	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> 「家で自分で計画を立てて学習していますか。」「学校の授業以外に、普段(月～金)1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか。(1時間以上)」の項目で肯定的回答が多く、学習習慣がしっかりと身に付いていると考えられる。 「自分には、よいところがあると思いますか。」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」の項目で肯定的回答が多く、自尊心を高くもち、自分の将来について考えている児童が多いと考えられる。 「朝食を毎日食べていますか。」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。」の項目で肯定的回答率が低く、生活習慣の重要性について意識を高める必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> 「『わかる授業』づくり5つのポイント」の、特に「4. 1単位時間の中に『話し合う活動』と『書く活動』」を意識するよう、「授業改善シート」を日常的に活用し、授業力の向上を図る。 どの教科等においても話し合い活動を位置付けることを全職員が共通理解し、主体的で対話的な授業展開ができるよう工夫していく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> 本校児童はテレビゲームやスマホ使用の時間が全国と比較して多くなっている。そのため、就寝時間が不規則になっている可能性も考えられる。学級レベルでの指導からスタートし、食育も含め保護者へも懇談会やプリント等で周知していき、学校と保護者が連携を取り合いながら子どもを育てていくようにする。
